

メディカル事業

優れた技術で高品質な製品を提供し、ひとびとの健康と豊かな生活の実現に貢献

「ひとびとの健康と豊かな生活の実現に貢献する」というミッションのもと、医療現場におけるさまざまな製品やサービスを提供しています。

メディカル事業のこれまでの歩み

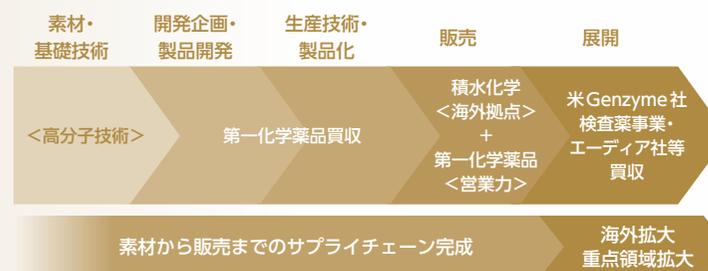
当社のメディカル事業部門と第一化学薬品株式会社の統合により、2008年に積水メディカル株式会社が発足。素材から販売までのサプライチェーンを完成させました。検査薬事業を基盤とし、これまでM&A等を通じて販路拡大と製品ラインアップ拡充を実現しながら事業構築を進めてきました。メディカル事業はグローバルに事業を展開しており、2008年に21%だった売上高の海外比率は2015年には50%に到達、その後も順調に海外売上を伸ばしています。これからも欧米・中国・アジアで事業展開を加速させていくとともに、開発体制を強化し、積極的な新製品投入による事業領域拡大を狙います。

※従来は「高機能プラスチック」の区分に含まれておりましたが、ライフサイエンス分野の主要部分を新たなカンパニー候補として成長させるため、2019年度よりメディカル事業として分離して開示しています。

事業拡大の経緯

2006年10月	第一製薬より第一化学薬品を買収
2008年4月	積水メディカル設立。事業の選択・集中を実施
2008年8月	米XenoTech社買収。薬物動態事業にて海外進出
2009年3月	米ADI社買収。検査事業における米拠点獲得
2010年2月	積水医療科技設立。中国事業強化
2011年2月	米Genzyme社から検査薬事業買収。海外本格展開開始
2015年12月	エーザイよりエーディア買収。検査重点領域を拡大
2017年9月	ペプチスター社に資本参加。特殊ペプチド関連事業を本格化
2018年3月	シンガポール Veredus Laboratories 社買収
2020年9月	中国(蘇州)検査薬新工場稼働開始

サプライチェーンの拡大



社会の変化を捉える

メディカル事業のサステナビリティ貢献製品

健康・福祉



検査事業

生化学免疫・糖尿病・血液凝固・感染症などの臨床検査薬や各種分析装置、真空採血管などの開発・製造・販売



CP3000



ナノピアP-FDP

医療事業

医薬事業： 医薬品原薬(API) / 中間体 / アミノ酸などの受託製造
 創薬支援事業： 医薬品開発の研究開発支援として、薬物動態などに関連する試験の受託



医薬品原薬(API)



創薬支援試験

メディカル事業

メディカル事業の今後の中長期戦略

検査事業

重点領域強化とグローバルパイプラインの拡充による海外展開加速を狙う

国内では、新製品の積極投入を進めます。一方海外においては、欧米では大手企業とのアライアンス拡大とPOC強化、中国では血液凝固分野の継続拡大と新領域への参入を進めていきます。アジアでは、前中期計画で買収した Veredus Laboratories 社の ASEAN 拠点化を進めます。

重点領域

重点領域	生化学・免疫	血液凝固	糖尿病	感染症 POC*	採血管
主な製品	コレステロールや中性脂肪、梅毒などの検査薬	血液の凝固・線溶に関する物質の検査薬・検査機器	HbA1cの検査薬	アデノウイルスやインフルエンザの検査薬・検査キット	血液検査用の高速凝固型プラスチック製真空採血管

*POC:Point of Careの頭文字。現場(診療所等)での迅速な検査・診断のこと

開発・新製品

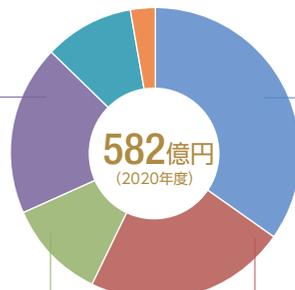
高感度免疫(国内・中国)	遺伝子POC(米国)	新規マーカー
新機器投入により、免疫市場へ本格参入	遺伝子検査(MDx)開発センターを設立し市場開拓を目指す	癌領域を中心とした新規バイオマーカー獲得*による事業領域拡大

*バイオマーカー:ある疾患の有無や進行度を把握するために用いられる生理学的指標のこと

領域別の売上高構成



ラピッドテスト RSV-アデノ・NEXT
乳幼児・小児において重篤化する可能性の高い呼吸器感染症の原因となる、RSウイルス/アデノウイルスの抗原迅速検査キットです。両ウイルスの同時検出も可能です。



炎症性腸疾患検査薬(ナノピアLRG)
炎症性腸疾患の活動性を反映するバイオマーカーとして、2020年6月1日に新たに保険適用されました。高精度の微粒子(ラテックス)を用いた技術により、簡便かつ迅速に検査結果を得ることが可能です。



ノルディア @N HbA1c

- 生化学/免疫
- 血液凝固
- 糖尿病
- POC(迅速検体検査)
- 採血管
- その他



血液凝固(ナノピアP-FDP)

医療(医薬・創薬支援・酵素)事業

生産設備増強による事業拡大

事業拡大を狙った大型設備投資を今中期計画において実施します。医薬では新規品の受注獲得と着実な製造プロセスを立ち上げ、創薬支援では国内と米Xeno Tech社の連携強化を図ります。また、酵素についてはCDMO*事業の拡大を狙います。

医薬品原料の生産能力増強

治療薬開発の中心が、従来の低分子医薬品からペプチド(中分子)・タンパク質医薬(高分子)・細胞医薬・再生医療等へ移行する中、当社では幅広い領域での原薬等の供給体制を整えるため、2020年8月に国内外主要2工場の生産設備増強を決定しました。

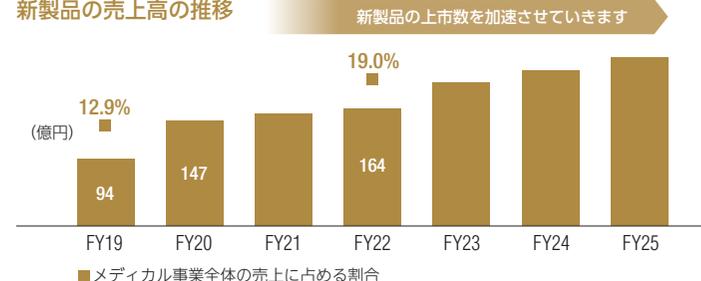
- ・低分子医薬向け原薬・中間体の生産能力25%増強(若手工場、23年3月~)
- ・タンパク質医薬向け原料のCDMO体制確立(英国工場、22年9月~)

◎設備投資による強化

	低分子医薬	ペプチド(中分子医薬)	タンパク質(高分子医薬)	細胞・再生医療
開発	○	○	○	
製造	◎	○	◎	
販売	○	○	○	○

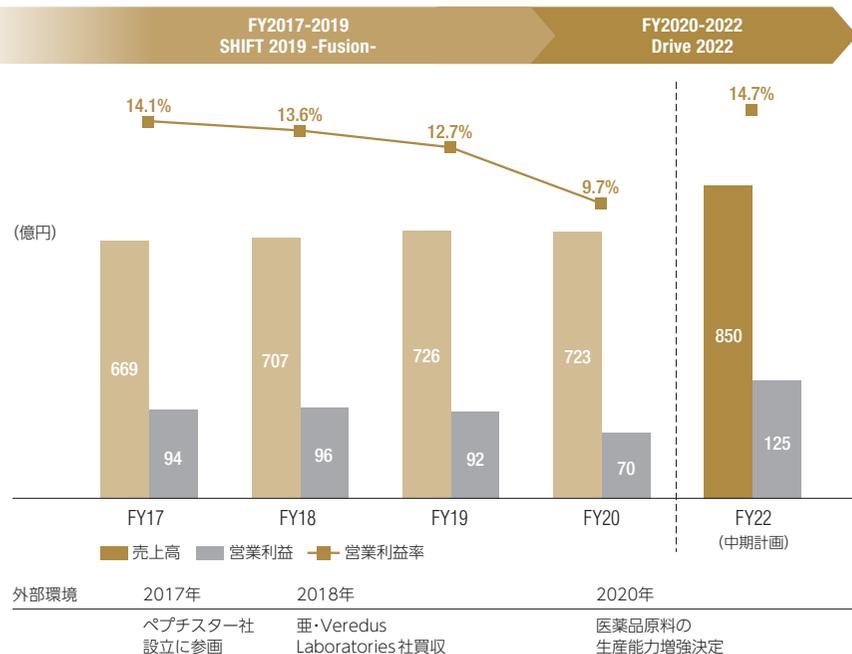
*CDMO:Contract Development and Manufacturing Organizationの頭文字。製剤開発から治験薬製造、商用生産まで、包括的にサービスを提供する事業形態のこと

新製品の売上高の推移



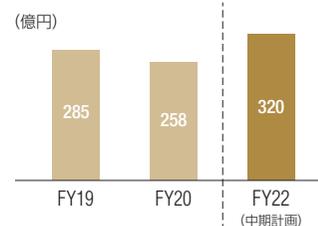
メディカル事業

業績推移

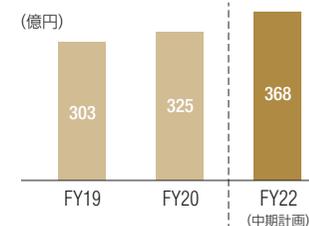


(億円)	FY18	FY19	FY20
資産	1,167	1,204	1,237
ROIC		8.4%	6.4%
EBITDA	145	147	127
減価償却費	31	37	41
資本的支出	44	46	46
研究開発費	51	52	53
従業員数 (人)	1,907	2,050	2,160
連結子会社数 (カッコ内は海外)	9 (8)	9 (8)	9 (8)

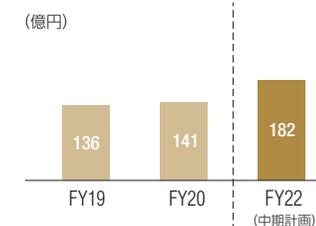
検査事業売上高 (国内)



検査事業売上高 (海外)



医療事業売上高



2020年度実績

2020年度は上期を中心に COVID-19 流行による生活習慣病検査の外来患者数減の影響を受け、通期で減収減益となりました。しかしながら、下期はインフルエンザ低流行による検査薬販売の減速はあったものの、一定の市場回復と COVID-19 検査薬の販売、固定費削減等により、前年並みの営業利益水準まで回復しました。一方、このような厳しい環境の中でも、医療事業は新規原薬の拡販によって増益を確保しました。

営業利益増減要因分析

	FY19 92億円 → FY20 70億円 ▲22億円						
(億円)	為替	新規連結等	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
通期増減	▲2	0	▲18	▲9	+2	+5	▲22
上期増減	▲2	0	▲13	▲10	+1	+5	▲19
下期増減	0	0	▲6	+1	+1	0	▲3

2021年度について

COVID-19 影響からの市況回復を前提とし、加えて2020年度に準備を進めてきた新製品の拡販を推進することで、成長軌道へ復帰させていきます。検査事業は、中国における血液凝固領域等で伸長が見込まれています。医療事業では、新規原薬の拡販と CDMO 事業の成長加速を図ります。また中期計画の重点項目である開発強化も着実に進めていきます。